



三代目
タツシです!

今回の伝えるファンディングのテーマは「俳句」です。
さりげなく静かに、それでいてワクワクのある
生活へ……。ちほるさんの伝ファンをどうぞ!

毎日をぼんやりと過ごすことが出来なくなる幸せ。俳句と暮らす。

「ここ、本当に眼鏡屋さん？」

私に初めて西島眼鏡店さんを訪れた時の印象です。

私と店主タツシさんとは親戚にあたります。婚家の菓子店に嫁いだ際、東京で眼鏡店の親戚がいるとは聞いていましたが、視力の良かった私にメガネは縁遠い物でした。然しながら老眼が進み、2021年春に虎ノ門、西島眼鏡店さんを訪れることに。あれから35年の月日が流れていました。

さて、皆さんもご存知の通り、西島眼鏡店さんの店内にはメガネ以外にも様々なアイテムが置かれていますね。

私にも日常に欠かせないアイテムの一つに「俳句」があります。

10年前、とあるSNSに短い詩を書いていた頃、日本伝統俳句協会に所属していた一人の俳人との出会いがきっかけです。

「詩より俳句の方が合っている」という一言で、俳句のことを何も知らぬまま手探り状態で俳句を始めました。

幸いなことに義父の書棚には、昭和10年代の歳時記や俳句の本があったのです。

作句を始め、まず気付いたことは、何よりも早く季節を感じ取る事ができるということです。

それは俳句には「季語」というものがあるからです。

俳句を始めると季語を通じて季節を感じるアンテナを、日常に張り巡らすようになります。

毎日をぼんやりと過ごすことが出来なくなるのです。

しかし俳句にはたった17音しかありません。

俳句で色々なことを述べるには無理がありますが、

季語を使うことにより、情景を想像することが出来ます。

これを「季語に語らせる」と言います

裏面へつづく →

